

和歌山県南紀地域の生活文化を発信し、地域の情報化に取り組む中高年の集まりがある。特定非営利活動法人（NPO法人）の「つれもてネット南紀熊野」だ。代表理事の千品（ちしな）雅彦さん（57）はインターネット上で地域文化を語る「eーかたりべ」の発掘・養成や環境保全活動、地域のパソコン講座運営などを仕掛ける。ネット教育サービスを提供する県外の「市民塾」などとの交流も広がっている。

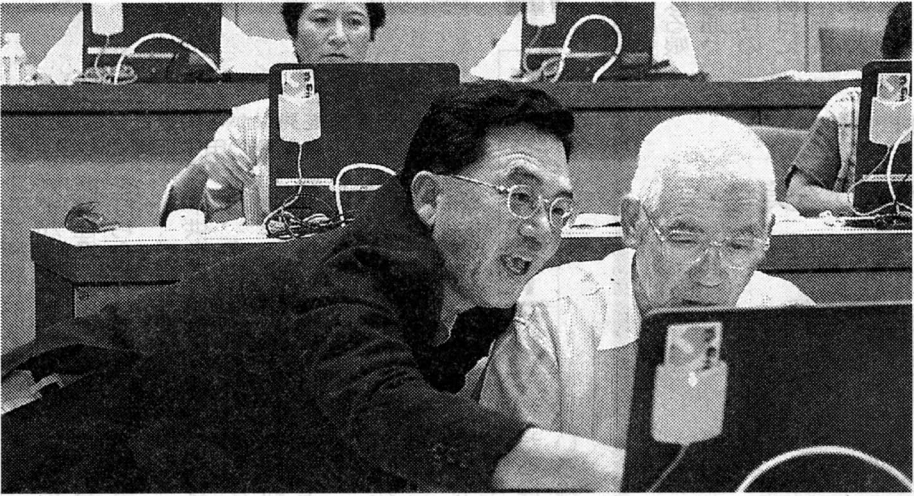
千品さんは田辺市の出身。なべ町清川から南高梅の梅づくりを紹介していきたい。く。 「今後は講座内容に農業と会社生活を送り五十一歳の時、家業の育林業を継ぐためUターンした。大手電機メーカーに勤め、情報関連の技術に携わった経歴から「この地域で役立つにはIT（情報技術）を生かすしかない」と、妻のみえさんとともに隣近所の人たちに呼び掛け、「つれもてネット」を設立。二〇〇四年三月に県からNPO法人に認証された。

南紀のシニアNPO奮闘

めざせ地域の情報化

千品さんが「私たちの活動のキーワード」として重視するのが「eーかたりべ」だ。みなべ町出身で梅農園を営む副代表理事の中本誠さん（45）、田辺市中辺路町高原地区にUターンして喫茶店を経営する理事の柏崎幸雄さん（65）らを語り手とするネット講座を制作。千品さんが理事を務める別のNPO法人「わかやまインターネット市民塾」のサイトで〇五年一月に公開した。

中本さんが語り手を務めるネット講座は「紀州の梅づくり」。梅の木や梅干しづくりなどの内容で構成する。ネット講座の画面には写真や図とともに中本さんが登場し、「み



インターネットの使い方をサポートする千品雅彦「つれもてネット南紀熊野」代表理事（和歌山県田辺市）

NPO法人の概要

- つれもてネット南紀熊野
代表理事 千品雅彦氏
活動内容 「eーかたりべ」によるインターネット講座の制作、普及、環境保全、地域文化の伝承、パソコン活用講座の運営
会 員 数 28人
年 会 費 6000円
U R L <http://tsuremote.net>
- わかやまインターネット市民塾
活動内容 インターネット上でのカルチャーセンター運営
U R L <http://wakayama.shiminjuku.jp/>

梅干しづくりや古道歩き 生活文化を ネットで発信

や化学肥料を使わない点を詳しく付け加えたい」（中本さん）という。

柏崎さんのネット講座は「世界遺産 熊野古道を歩く」。熊野古道中辺路の滝尻王子から湯川王子までを写真と音声で解説していく。〇五年三月には講座を見た埼玉県や富山県からの観光客と熊野古道を歩いて実地解説もした。柏崎さんは講座内容に熊

野那智大社までの熊野古道方イドを付け加えたい」と張り切る。

柏崎さんは「つれもてネット」の環境担当も務める。高原地区の自宅兼喫茶店近くに所有する休耕田に県の助成を得て水生動植物のすむビオトープ（広さ約八百平方メートル）を整備。〇四年七月に子供らを招いて自然観察会を開き、環境教育の場とした。「夏は草刈りが大変だが、また開きたい」

地域文化の伝承も「つれもてネット」の活動の一つ。

七月十三日の夕方、千品さんの実家のそばにある事務局に、理事でIT担当の河合綱昌さん（63）と会員の中西春文さん（55）が集まった。河合さんはUターン、中西さんはUターンで白浜町に住む。

この日は民家の軒先に野菜や花の作り物を飾る田辺市新庄町の伝統行事の映像をビデオカメラに収めた。会員である地元の主婦らの撮影した写真と合わせCD-ROMに記録する。

河合さんと中西さんは県立情報交流センターBig・U（田辺市）に〇五年三月に開設した「つれもてゆうゆうサロン」で、中高年向けパソコン活用講座のアドバイザーを務める。開講日は水・金・土・日の週四日。受講人数はまだ少ないが、千品さんは「〇七年ごろから退職を迎える団塊の世代の受け皿になる」と

「つれもてネット」の会員の間でも「人脈が広い」と定評のある千品さんは県外との交流にも積極的だ。主な交流団体は「富山インターネット市民塾」、NPO法人「シニアSOHO普及サロン・三鷹」など。ネットコンテンツを共有したり、他地域の団体の活動を知ったりすることで自分たちの活動を見直す狙いからだ。

千品さんは「梅干しづくりや熊野古道歩きを、生活者の視点から発信できた」と振り返る。安定収入や若手人材の確保も課題だが、「多くの人が『eーかたりべ』となって生活文化を発信できるようにしたい。この地域を出ていった人たちを呼び戻すことにつながる」と力を込める。（和歌山支局長 澤野智）

経済・文化情報がいっぱい
日経ネット 関西版
Kansai
<http://www.nikkei.co.jp/kansai/>